

南の風

- ・巻頭言
- ・6月のスナップ
- ・熱中症対策 ・校地内外の事故防止
- ・7月の予定



過程を評価する

校長 若狭 陽一

7月早々に、個別懇談会が行われます。保護者の皆様には、ご都合を付けていただきありがとうございます。

私が担任時代、個別懇談でよく相談された話が、「家で言っても、聞かない（効かない）のですよね。どうしたらよいのでしょうか」でした。その際、よくお答えした内容は、「結果よりも過程を大切にしましょう」でした。例えば、次のような話です。

なかなか家庭学習に取り組めない子どもの場合、取り組んだかどうかの前に、取り組もうと学習机に向かったことを褒めましょう。机で学習していなくても、まずは、そこから……。次に、5分でも学習できるようになったら褒めましょう。初めから、60分できたかどうかを評価しない方がよいですよ。

確かに、保護者の皆様にとっては、子どもの将来を考えれば考えるほど、結果が気になるのは当然です。しかしながら、過程を評価していった方がうまくいく場合が多い（できるようになる速さには個人差がありますが）のです。

この「過程を評価する」という取組は、実は「結果を評価する」よりも時間が掛かり、我慢のいる作業です。まず、評価する大人は、ゴールを明確にし、子どもがそこに辿り着くまでの姿を段階的に思い描かなければなりません。さらに、その子どもを気に掛けて、思い描いた姿を見付けようと積極的に観なければなりません。そして、よい姿を見つけた時は適宜評価（賞賛）することが大切となります。実は、これらの姿勢こそ私たち教員に求められていることです。話をただで、子どもが話のとおり言動を改善できたら苦労はいりませんよね。

国語教師・国語教育研究者として有名な大村はまさん(1906~2005)は、次のように話しています。

「話は一度で聞くこと」をモットーにしているとき、絶対に言うてはいけないことばは、「さっき言ったじゃないか」、そして、忘れてはならないことは、自分が一度でわからない話をすることがあるにちがいないことだと思います。

この話は、教師として耳の痛い話です。私自身を振り返ると、一度話をして、指導をしたと片付けてきたことがいかに多かったかと反省させられます。

ですから、話をした後で、自分の話が子どもに理解されているのか（伝わっているのか）を確認する必要があります。さらに、その後子どもがどのような姿を見せているのか、学校と保護者とで情報交換が必要です。「お互いのもっている情報を基に、過程を評価していく」という意味で、個別懇談会はとても大切な行事だと考えております。今後も、学校と保護者とが積極的に情報交換を行いながら、一緒になって子どもを伸ばしていきたいと思っております。今後とも、よろしくお願いたします。

